

審議会等の会議の記録

会議の名称	令和6年度第3回子ども・子育て会議
開催日時	令和6年11月18日(月) 午後2時00分から午後3時00分まで
開催場所	市役所東館3階 災害対策室
出席者氏名	<p>【委員】 江原委員、井田委員、久保田委員、松本委員、柳澤委員、小暮委員、佐野委員、中西委員、森村委員、黒澤委員、水谷委員、宮崎委員、西川委員、高橋委員</p> <p>【関係者】 株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所 小林支社長、同竹澤主任研究員</p> <p>【市職員出席者】 井田福祉こども部長、山本福祉こども部副部長、森村子育て支援課長、石原課長補佐、内田課長補佐、高橋主査、松原主任、健康管理センター小此木所長補佐、櫻井主幹、こども保育課新井課長補佐、工藤係長、中嶋主査、学校教育課櫻澤課長補佐、学務課関上課長補佐、生涯学習課川田補佐</p>
傍聴人数	0人(公開)
会議の議題	(1) 令和7年度小規模保育事業(A型)の認可について (2) 第3期子ども・子育て支援事業計画(案)について
会議資料の内容	資料1 すまいるきつず保育園の小規模保育事業(A型)認可申請の概要 別冊 第3期伊勢崎市子ども・子育て支援事業計画(案)

会議における
議事の経過
及び発言の要旨

会議の経過は以下のとおり

《 1. 開 会 》

(事務局) 開会及び会議の出席者の報告

《 2. 挨拶 》

(会長) 挨拶

《 3. 議 事 》

(1) 令和7年度小規模保育事業（A型）の認可について

(事務局) 資料1の説明

(会長)

これは4月から動くということか。

(事務局)

はい。

(会長)

ほかにあるか。無いようなので次に進む。

(2) 第3期子ども・子育て支援事業計画（案）について

(事務局) 別冊の説明

(会長)

内容が非常に多く、いろいろなところを見ていただいたと思うが、その中で意見や質問はあるか。

(委員)

34ページの「施策の目指す姿」と37ページの基本目標は同じだと思うが、37ページでは「～を目指します」、34ページでは「～ができています。」となっており、どちらが正しいか。

(事務局)

34ページの「施策の目指す姿」は、今年度策定中の「伊勢崎市総合計画」で子ども・子育て支援施策の目指す姿として掲載している文章をそのまま引用しており、あくまで総合計画として目指す姿を表現している。一方で、この計画の基本目標はその姿に向けて「こどもを産み育てることを目指します。」という表現をしている。

(会長)

ほかにあるか。

(委員)

42ページの2「教育・保育の質的向上の推進」について「小学校との連携や職員の交流、情報共有を行うとともに、障害児等特別な支援が必要な子どもへの配慮に努め、小学校教育との円滑な接続に取り組みます。」という文言が入っている。

確かに公立の幼稚園と小学校は一緒に協働し、研究したりしているようだが、一方で私立の施設は、幼稚園・保育園・認定こども園問わず、年に1、2回の研究会には参加しているが、まだ職員の交流や子どもたちの交流まではしていない。

幼保こ小が連携することは、こどもが幼児教育から小学校に行くところの段差を少なくする面や進学に対する不安を和らげる側面もある。

コロナ前には、各小学校が一日体験入学というものをやっていた。コロナ禍で中止になったのは致し方ないが、コロナ禍が明けた今でも現在半分が行っていないと聞いている。これは今の流れに逆行してはしないか。

計画にこのような文章を書いていただくのは非常にありがたく、こういったことを推進していくことは本当に良いとは思いますが、足元でこういう状況が起きているというのは見逃せない。

計画に記載するのであれば、そういったところから考え方がどうなのかと言わざるを得なく、この4月から入学するこどもも大勢いる中で、今からでも早急な対応や対策を講じていただきたい。

それともう1点、4「教育・保育人材の確保、就労支援の促進」について、「関係団体と連携したうえで、市内の保育施設の特色や魅力をPRすることで、保育士として働くことへの不安を解消し、～」という文言が書いてあるが、PRぐらいでは何ができるだろうか。もうそのレベルを過ぎているのではないか。

一つ一つの施設が何かできるというレベルではなくなってきており、各自治体ではいろいろな施策をすでに打っている。

具体例を挙げると、太田市は保育関係に通う学生に対して就学支援金を出していたり、高崎市についても市内の各施設にバス等を使って園見学をしたりしている。

また、県内の幼稚園・保育園・認定こども園の業界の3団体が、合同で就職説明会を行っているが、年々参加人数が減っている。

保育の質を担保することも、施設が運営できこどもを預かることができることも、そういった職員確保があってはじめてできる。「こども誰でも通園制度」も、こどもを預かるには職員の手当てがなければならない。

この問題については、伊勢崎市として力を入れ、PRではないもっと有効な対策に早急に取り組んでいただき、対策を打っていただきたい。

(会長)

「小1プロブレム」は結構話題になっており、「小1の壁」は大学の授業でも取り上げている。コロナで見学にも行けなくなってしまったが、できれば園のこどもたちが行けるような対策で考えられるようなことはあるか。

(委員)

私は現在中学校の校長であるため、求められることにすべて回答できるわけではないが、コロナ禍によりやむなく取りやめていた事業で、その後復活しているものとそのままになっているものがあるのは事実である。

その中で、多くの伊勢崎市内の学校区では校園長会議を開いている。私は現在殖蓮中学の校長だが、月に1回、中学校校長・2校の小学校校長・殖蓮幼稚園園長での校園長会議を必ず行い、幼小中の連携から地域課題やいろいろなことを検討している。

そこで園長が話しているのは、公立幼稚園で預かっているこどもの数は減ってきている中で、公立だけでなく私立の幼稚園も含めて架け橋プログラムを実施するという市の方針を受け、地域に対し、一緒に研修を行ったり、情報共有をしたりすることを呼びかけ続けているが、私立の施設によっては、賛否もあり、なかなか日程も合わず、その交流研修は簡単に進んではないのが現状であるとのことであった。

また、1日体験入学という1日がかりのイベントという枠に限らず、細かな連携ということも実施している。

例えば給食を経験していない園児が小学校に来て、1年生が給食を配膳するところを見たり、学級集団を見たりというところから、幼き中でも先輩の配膳する姿を見たりする。

小学校の校庭を開放して、幼稚園と小学校の先生とで、授業時間ではない時間に園庭で遊んだりして、ここに今度来るのだと話したりする。

ただそこにはたくさんある私立を含めてさまざまな施設との連携は不十分であると思われるため、私も今日出た意見の話はしていきたいが、市内の各地区においても話していくべきものであることと思っている。

1日体験入学だけではなく細かな体験を少しずつ工夫しているところがあるのは事実であるが、不安や見通しを持って行くというところは確かに大事なつながりの部分であるため、研修だけではなくそういうところはぜひ検討していきたい。

(会長)

その辺、市としての対策はあるか。教育と保育と担当部署が分かれてしまうのか。

(事務局)

縦のつながりと横のつながりで、特に縦のつながりについては、幼保小連携研修講座や、先日も幼保小の情報交換会を行った。こども保育課にもお世話になり、保育所等に案内を出し、今年は30を超える施設に参加していただいた。その中で、先生同士のつながりについては、生活科の授業の様子や小学校に入ってきた

たこどもたちの姿を伝えたり、実際に5歳児の遊びの様子を園のほうから伝えたり、架け橋期の教育の充実に向けてという話を進めている。

体験についても、コロナ後どれだけ数が増えてきているかを調べている。少しずつ増えてきているという実情はあるが、すべてが行われているということではない。

だんだんと形を変えながら新しい体験を考えている学校が現状出てきているというところまでは捉えている状況である。

また、先日、課にも相談があったが、私立の幼児教育施設からある小学校と連携が図れないかということで、こちらが学校と幼稚園を繋ぐような関わりをした。また、ある小学校については、実際に幼稚園の子たちを生活科の学習に招待し、それを体験入学に代えるという取組を行っているというような話があったが、今後そういった体験の場がどのように実施できるかについて考えていく必要がある。

(会長)

各園によって各学校によって、いろいろな対策が取られていると思うが、やはり市全体ですべてのこどもが同じように体験できるようなシステムづくりができるといいと思う。

小学校のこどもたちもそういう幼児を見ることはいい勉強になり、先生方の協力も大切である。大変であることは重々承知しているがぜひ検討していただきたい。

また、2点目の保育士の問題で、どこの大学でも保育の学生が非常に減っている。社会全体でも給料が安い等いろいろと言われ、保護者にもやめたほうがいいと言われ、コロナで中学生の職場体験がまったくできなくなった。職場体験を契機に入学してきた学生が多かったが、そういうこともまったくできなくなった。保育はそういった施策はまだ検討されていないのか。

(事務局)

担当課としても、保育の人材不足は承知している。

伊勢崎市に勤めることを保育士に働きかけるような新しい施策の検討を進め、具体的な施策ができた際には、保育園会や幼稚園会において説明させていただきたい。

(会長)

ぜひ前向きに、奨学金制度等、学生が学びやすいような形を取っていただければ、保育士の数が増え、こどもたちによりよい保育が提供できるのではないかと思うので検討をお願いします。

(委員)

今出ている意見はとても大事なことだが、実現するためには、人の確保と予算措置が必要である。

私の経験談として、高校では中学生に対する学校説明会や1日体験入学等は学校独自に行われていた。当時高校は統廃合が行われており、少子化の中でどう生徒を確保していくか、ニーズのある学校づくりをどう工夫していくか、現有勢力の中でどういう科目を設置すればよいか等、すべてを検討していた。

小学校は県立高校とは状況が違ってもいいが、個別にしる

地域にしる、そのような体験入学やオープンスクールのようなものを、職員の勤務にあまり影響がない範囲で、柔軟にやっていくことがいいのではないか。

幼稚園や保育園のこどもだけではなく地域の住民が行ってもいいと思う。開かれた形でのオープンな日常的な体験が年に1、2回でもあると、ああいう所に行ってみたいと思えるのではないか。制度を超えた柔軟なやり方が工夫次第でできるのではないかと思う。

(会長)

確かに大学でもオープンキャンパスを何度もやり、模擬授業を保護者にも学生にも見てもらっている。全部同じようにはできないかもしれないが、そんな工夫もそれぞれできたらいい。

ほかに何か意見はあるか。無いようなので、以上で議事を終了する。

《 4. その他 》

(事務局)

今回の会議は、2月7日(金)午前10時から市役所の北館4階で予定している。正式な開催通知は後日送付する。

《 5. 閉 会 》